



THE Y'S MEN'S CLUB OF AIZU
会津ワイズメンズクラブ
CHARTERED ON FEB. 1993



《 例会 》 毎月第 2 水曜日 19:00~21:00 若松栄町教会 (☎ 0242-27-3944)

2016~2017 年度主題

International President :Joan Wilson (カナダ)
"Our Future Begins Today" 「私たちの未来は、今日より始まる」
Asia Area President :Tung Ming Hsian (台湾)
"Respect Y's Movement" 「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事 利根川恵子 (川越) 「明日に向かって、今日動こう」
北東部部長 長岡正彦 (もりおか) 「明日のために、いま土台を築こう」
会津クラブ会長 青山孝男 「明日を楽しく、共に歩もう！」

<No.255 会津通信>
2016 年 7 月 18 日発行

会 長 青山孝男
副会長 高橋真美
書 記 高橋真人
会 計 高橋真人

◇7月の聖句◇

主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも論しをも侮る。

箴言 1 章 7 節

7 月例会プログラム

日時 ; 2016 年 7 月 18 日(水)19 : 00~
会場 ; 若松栄町教会

司会 ; 高橋 真人メン

- | | |
|---|--------|
| 1. 開 会 点 鐘 | 高橋京子会長 |
| 2. ワイズソング | 一 同 |
| 3. 会長あいさつ | 高橋京子会長 |
| 4. 連 絡・報 告 | |
| 5. 聖 句 朗 読 | |
| 6. 食前感謝 | |
| 7. 会 食 | |
| 8. 懇 談 「会長引継ぎ・活動方針」 | |
| 9. Happy Birthday! Happy Anniversary!
- あかべこ | |
| 10. 閉 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |

<6 月例会出席状況>

在 籍 者 5 名 ゲスト 0 名
出 席 者 3 名 ネット 0 名
*6 月例会出席率 60%
あ か べ こ 4,200 円
15-16 年度合計 45,000 円

歩みを楽しくそして力強く！

1、**会長主題**は「明日を楽しく、共に歩もう！」
地域と共に生き歩むために、明日を楽しむ会津クラブであることとしました。
少人数ではありますが、メンバーとともに楽しむクラブを醸し出していきたい。



2、**活動方針**

(1) **メンバーの獲得を目指そう！**
5 名で数年頑張っていますが、やはり若返りと同時に活動の拡がりを図るためにもメンバー獲得は必須です。
(2) **会津クラブらしい活動をアピールしよう！**
継続している活動をこれからもこの先いつまで続けていけるのか、メンバーの年齢を考えるとマイナス要素(限界や弱体化等)がないわけではありませんが、見据えた活動でこの会津の地を東日本区にしっかりとアピールしていくことではないでしょうか。
(次回は高橋真美ウイメン)

☆ 強い義務感を持つとう 義務はすべての権利に伴う。 ☆

会津放射能情報センターNEWS

センターでは、会員とその家族を対象に甲状腺エコー検査を始めました。地元のK医師のご協力があって実現したものです。3月19日の第一回の検査には16名の会員や家族が受診、エコー画像を見ながら丁寧な説明を受けることができました。事前には山崎知行医師を講師として「甲状腺検査勉強会」を開催。

甲状腺がんやがんの疑いと診断された子どもが予想外に多く出てきているという事実の中、多くの方々が熱心に講義を受け「わかりやすく大変良い学びでした」「医師に言われるままではなく、CTやレントゲンなど、なるべく無用な被ばくを避ける努力をしたいと思います」という声も多く寄せられました。

福島県では、原発事故当時18歳以下の子どもたちを対象に、甲状腺エコー検査を行っていますが、事故当時19歳以上と事故後2年目以降に生まれた子どもたちは、福島県の検査対象になっていません。さらに事故後に福島県に転入した子どもたちも対象外です。

センターでは、年齢を問わず検査を受けていただけるよう、今後も継続して実施していきたいと考えています。次回は8月に行う予定です。(20号より抜粋)



会津だより

「ユニークダンスつばさ」総会の開催

6月15日「大江戸温泉物語あいづ」に11名参加しての2016年総会が開催された。新入会員4名を迎え2015年活動は毎月の定例会と施設訪問そして交流会、会計決算の報告がされた。会津ワイズメンズクラブから活動の



補助をしている。2016年の活動は定例会と施設訪問のほかに、会津若松市国際交流協会主催の国際交流フェスティバルに参加し、ステージでのダンスの披露と展

示ブースでの紹介をする予定です。役員は全員が再任され青山会長が代表を務めます。会津クラブメインの活動として今期もユニークダンスつばさを支援し、他クラブに国際交流フェスティバルの案内をしたいと思っています。



会津若松市政だより6月

に掲載された記事を紹介します。

普通のサラリーマンでも

日本語の先生になれるんです

「私は、語学ができるわけでもないし、ホームステイに行ったことがあるわけでもないんですよ」と話すのは、日本語ボランティアの活動を始めて23年目になる青山さんです。青山さんがボランティア活動を始めたきっかけは、「何かやってみようかな。外国出身の人と交流してみたいな」というちょっとした好奇心からです。当時、交代勤務の会社員だった青山さんは、自分の空いた時間を利用してボランティア活動を始めました。

「生徒から『先生、日本語通じたよ』と言われるとうれしい」と話す青山さんは、「日本語だけでなく、日本の文化も学んで欲しい」との思いから、生徒たちを連れて初詣に行ったり、温泉に行ったりしたこともあります。そんな青山さんが、日本語を教えるときに大切にしていることは、「生徒の希望に添った授業ができるように、一人ひとりの学びたい内容を把握する」こと。そのためにも青山さんは、コミュニケーションを取ったり、外国の文化などを勉強したりして、生徒一人ひとりを大切にしています。

「誰かに必要とされ、人のために自分が何かをすることが喜び」と言う青山さんにとって日本語ボランティアはライフワークになっています。



3, 会津藩の藩祖「保科正之」

正之はその手腕で文治政治を推し進め、殉死の禁止、末期養子の禁の緩和、玉川上水の開拓など、様々な改革を打ち出しました。政治的手腕は会津にも発揮され、産業の発展に



何より力を注いでいました。また明暦3(1657)年の明暦の大火で江戸城の天守が焼失した際、江戸城の天守の再建

よりも民衆の生活の安定に努め、以来江戸城の天守が再建されることはありませんでした。

◆ 今後の予定 ◆

◇8月例会 8月10日午後7時より

◇ユニークダンス例会

8月24日 会場：アガッセ

